



#3286

九重町 議会だより



No.150
2025.7.17 発刊



もくじ

- | | |
|--|--|
| ●補正予算 P2 | ●議会のあり方検討特別委員会意見交換会
議会活動報告 P7 |
| ●議案リスト・補正予算質疑応答
臨時議会(4/14) P3 | ●一般質問(7名) P8~P14 |
| ●総務建設産業常任委員会報告
教育民生観光常任委員会報告 P4 | ●きらり★ここのえ人
(野上 佐藤 義徳さん) ... P15 |
| ●教育民生観光常任委員会研修報告 P5 | ●バトンをつなぐ(飯田)
編集後記 P16 |
| ●総務建設産業常任委員会研修報告 P6 | |



～きらり★ここのえ人～
佐藤 義徳さん

令和7年第2回定例会

本定例会は6月9日から6月20日までの12日間開催されました。
専決処分を含む報告3件、議案9件、請願1件、陳情1件を慎重に審議しました。

令和7年度 一般会計補正 予算(第2号)

補正前の額	87億6,200万円
補正額	3,511万8千円
補正後の額	87億9,711万8千円

◆ 補正予算の主な内容

歳入	増額		
	○おおいた園芸産地づくり支援事業補助金(県支出金)		1,358万1千円
	○小規模給水施設整備事業補助金(県支出金)		653万4千円
	○小水力発電売電収入(財産収入)		1,019万9千円
歳出	増額		
	○おおいた園芸産地づくり支援事業補助金		1,714万5千円
	○小水力発電施設整備基金積立金		467万3千円
	○全国瞬時情報システム更新事業		385万円
特別 会計	補正前の額	補正額	補正後の額
	○国民健康保険 14億2,522万9千円	13万1千円	14億2,536万円

公営企業会計(簡易水道事業会計)

区 分	予算額	補正額	補正後の額
資本的収入	3,987万5千円	1,395万円	5,382万5千円
資本的支出	6,206万4千円	1,496万円	7,702万4千円

令和7年度 一般会計補正 予算(第3号)

補正前の額	87億9,711万8千円
補正額	743万3千円
補正後の額	88億 455万1千円

◆ 補正予算の主な内容

歳入	増額 ○物価高騰重点支援地方創生臨時交付金(国庫支出金)	743万3千円
歳出	増額 ○地域消費喚起プレミアム商品券発行事業補助金	975万円

第2回九重町議会定例会「令和7年6月9日～6月20日」

議案番号	件 名	付 託	結 果
報告第1号	専決処分の報告同承認を求めることについて		承認
報告第2号	令和6年度九重町一般会計繰越明許費繰越計算書について		
報告第3号	令和6年度九重町一般会計事故繰越し繰越計算書について		
議案第64号	財産取得について		可決
議案第65号	特別職報酬等審議会条例の一部改正について	総務建設産業	可決
議案第66号	各種委員会の委員等の報酬及び費用弁償条例の一部改正について	常任委員会	可決
議案第67号	令和7年度九重町一般会計補正予算（第2号）		可決
議案第68号	令和7年度九重町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）		可決
議案第69号	令和7年度九重町簡易水道事業会計補正予算（第2号）		可決
陳情第3号	富迫集会所（自治公民館）改築に関する陳情書		可決
請願第2号	ゆたかな学びの実現・教職員定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための2026年度政府予算に係る意見書の提出に関する請願書	教育民生観光 常任委員会	採 択
議員提出議案			
発議第3号	ゆたかな学びの実現と教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書について		可決
追加議案			
議案第70号	財産取得について		可決
議案第71号	財産取得について		可決
議案第72号	令和7年度九重町一般会計補正予算（第3号）		可決

第3回九重町議会臨時会「令和7年4月14日」

議案番号	件 名	付 託	結 果
議案第62号	工事請負契約の締結について		可決
議案第63号	令和7年度九重町一般会計補正予算（第1号）		可決

繰越明許とは

何らかの事由により、当該年度に支出が終わらない見込のものについて、議会の議決を経て、翌年度に繰り越して使用できる制度です。

〈繰り越した事業の一例〉

- ・ 野上小学校長寿命化改良事業・旧野上中学校施設解体事業・小松地獄園地内園路整備事業
- ・ 九重町特定建築物耐震化促進事業 ・ 書曲改良住宅建替事業・農地災害復旧事業 など

契約に係る議決の内容は以下のとおりです

議案第62号	工事請負契約の締結について	5,984万円
	令和6年度（6年災）災国町村第41号馬子草線道路災害復旧工事	
議案第64号	財産取得について「ココバス車両2台」	580万8千円
議案第70号	財産取得について「小型スクールバス1台」	1,012万円
議案第71号	財産取得について「水槽付き消防ポンプ自動車」	4,021万6千円



馬子草線道路災害箇所

「委員会に付託を受けた下記2議案は可決となりました」

議案第65号「特別職報酬等審議会条例の一部改正について」

町長が報酬等の額の変更を議会に提出する際に、あらかじめ報酬等の額及びその改定の実施時期について審議会に諮問することを明文化し、加えて答申等内容を整理するものであり、適当であるとの結論に達しました。

議案第66号「各種委員会の委員等の報酬及び費用弁償条例の一部改正について」

「九重町立小学校のあり方検討委員会（学識経験者）」、「九重町立小学校のあり方検討委員会（学識経験者外）」及び「九重町起業支援事業補助金審査会委員」の報酬を追加するものであり、九重町立小学校のあり方検討委員会設置要綱に学識経験者を明記する事を付帯意見とし、額については現状維持とし適当であるとの結論に達しました。

九重町立小学校のあり方検討委員会

九重町起業支援事業補助金審査会

2つの委員会、審査会が追加されました。



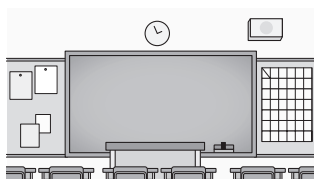
陳情受付番号第3号「富迫集会所（自治公民館）改築に関する陳情書」

提出者：富迫集会所建設委員会委員長 足立 章氏 外富迫上下区長2名

老朽化の著しい現在の富迫生活改善センターの改築を望まれるものです。平成23年9月に改築の要望・陳情を受け、平成24年9月議会において一度採択されましたが、その後、改築予定地が「土砂災害警戒区域」であることが判明し、計画は一時中断となっていました。しかしながら、コミュニティの核として公民館は絶対に必要という声が高まり、富迫上・下合同会議で、「土砂災害警戒区域外」である集落の中心地に、新たに公民館を建てるという意思決定がなされたとのことであり、理解できるため採択としました。



請願受付番号第2号「ゆたかな学びの実現・教職員定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための2026年度政府予算に係る意見書の提出に関する請願書」



提出者：大分県教職員組合玖珠支部執行委員長 藤本貴裕氏並びに玖珠郡PTA連合会会長 後藤哲也氏、外7名の九重町小中学校PTA会長

3点の要望を国の関係機関へ意見書を提出することの請願で、理解できるため採択としました。

教育民生観光常任委員会研修報告

5月19日～21日の3日間、和歌山県紀美野町・海南市、大阪府太子町・茨木市を訪問し、研修を行いました。

5/19

地域振興・関係人口・社会教育について

紀美野町

産官学が一体となった「きみの地域づくり学校」の設立経過、運営について伺った。和歌山大学と深く連携しており、カリキュラム検討や講師の依頼等、企画・運営において協同で運営を行っている。

過疎化・少子高齢化が進む一方で、「田園回帰」として若い世代の移住が増えつつあり、移住せずに地域に関わって応援する「関係人口」を増やす取り組みにも注力している。



5/20

市民交流施設視察

海南市

海南nobinosu、日本一の開架冊数となる絵本5万冊を蔵書した図書館・ホール・託児所・スターバックスコーヒー等備えた複合施設。



議会表敬訪問

太子町

議会議長と情報交換。人口減少が進み、高齢化65歳以上の割合は50%に迫ると予想され、地域全体での取り組みが必要との考えから、羽曳野市と大阪狭山市を加えた5つの市町村と大阪府で協議会を設置。今後合併を視野に協議を進める方針。

情報発信について

太子町：株式会社 京谷商会

情報サイト「太子タウン」太子町に特化した情報を発信（イベント・公的情報含む）高齢者向け配食サービスを軸に事業展開している。

5/21

観光施設の視察

茨木市

GODA BRIDGEを視察。全長420mで日本最長、世界で3番目に長い歩行者用吊り橋、高さ60m、湖面からの高さ55m、橋の重量325t、人数制限1,800人。



5月22日～24日の3日間、秋田県横手市・湯沢市を訪問し、研修を行いました。

5/22

6次産業化支援施設視察

秋田県横手市

横手市の農業は稲作を中心に、地域特性を活かしたスイカ、トマト、リンゴ、ぶどうなどの栽培も盛んな複合経営が特徴です。米消費量が減り続ける中、農業所得向上と担い手の確保・育成を図るため横手産農産物を活用して『6次産業化』に取り組む裾野を広げる展開に取り組んでいます。

そこで、『6次産業化支援施設』を整備し貸し出すことで、6次産業化に取り組もうとする個人や団体の方が農産加工へチャレンジし、加工から販売まで、必要なノウハウを学んでもらうための支援をし、農業所得向上、地域活性化へ繋げる取り組みを行っています。

施設内には厳重に管理された無菌室があり、衛生的な環境で農産物の加工が可能となっており、開発された商品はふるさと納税返礼品や学校給食に取り入れられており、女性が多く活躍する場として、地域活性化にもつながっているとのことでした。



5/23

かたつむり山発電所(建設中)について

秋田県湯沢市



○地熱資源の有効活用

湯沢市は、国内有数の地熱資源地帯にあり、「地熱モデル地区」に認定されており「地熱のまちゆざわ」をキャッチフレーズに地熱発電だけでなく、温泉熱の農業利用や観光利用など、地域振興にも幅広く活用しています。現在、2地点の地熱発電所が運転中で、九重町に次ぐ全国2番目の総発電量となっています。

「かたつむり山発電所」は現在建設中で現地の見学はできませんでしたが、建設・運営にあたる小安地熱株式会社の所長より丁寧な説明を受けました。2011年から調査が開始され、10年後の2022年事業化決定、クマタカ等の猛禽類の調査、温泉モニタリング、自然景観への影響を最小限に抑えながら、2023年3月経済産業大臣より地熱発電所として初めて「重要電源開発地点」に指定され、2027年下期の運転開始を目指しています。

また、発電だけでなく、皆瀬地熱利用農産加工所では、皆瀬地域の豊富な温泉水を活用し、農産物の乾燥や加工を行い、地域資源の有効活用と、高付加価値な農産品開発に取り組んでいます。

『議会のあり方検討特別委員会』 意見交換会実施中!

☆社会教育委員の方々との意見交換

日時 令和7年4月8日 場所 九重町役場会議室



【参加者の声】

- ・議員の活動が見えないため意見を出しにくい
- ・住民の声を反映するためには現行の人数が妥当である
- ・報酬を上げれば議員の成り手が増えるわけでもない
- ・一度きりでなく、再度意見交換会を実施したい
(報酬についての意見はせず、報酬審議会の仕組みを説明)

☆ポッチャ愛好会の方々との意見交換

日時 令和7年5月7日

場所 東飯田公民館

【参加者の声】

- ・人口減でも現行の議員数は維持すべき
- ・議員が減れば町民にとってはマイナス
- ・現行の報酬では若者が議員になれない
- ・しっかりと活動してもらうために報酬を上げるべき



※意見交換会 今後の予定 (6月23日時点)

※6月25日…栗野本村

7月1日…パワーアップ教室 4日…農業委員会 10日…ハッスルシルバーズ

8月26日…潜石

意見交換会の申し込みは、議員または議会事務局まで ☎ 0973-76-3814

3/25

玖珠九重行政事務組合議会

3月25日、令和7年第1回定例会が開催されました。

九重町からは、佐藤明郎議長他3名が出席し、議案第1号「玖珠九重行政事務組合監査委員の選任について」などが提出され、審議の上全て承認されました。

5/16

日田玖珠広域消防組合議会

5月16日、令和7年第1回臨時会が開催されました。

日田市議会及び玖珠町議会の構成変更により、新たに正副議長、監査委員を選任しました。議長に日田市の三笥 誠議員、副議長に九重町の佐藤 明郎議員、監査委員に玖珠町の衛藤 和敏議員が選任されました。

町政を質す 一般質問

7名の議員が質問

将来の財政が心配だ ～自主財源確保に向け提案～



菅原 美好

将来の財政が心配だ

菅原 令和7年度当初予算87億のうち18億円を基金から充当、基金残高43億円になっている。職員の人件費、社会保障の扶助費、公債費等義務的経費が増大し、投資的経費等が減少している。将来的な財源確保の為、①吊橋の入場料500円アップし1,000円に②新たな宿泊税を導入し観光振興に充当③ふるさと納税の返礼品に玖珠米、特Aのひとめぼれを提供し、増額できるのでは。以上3点についての考えを。

執行部 来年度吊橋20年を迎える。今後の在り方を含めて検討していく。宿泊税は、関係者等の意見を聞いていきたい。ふるさと納税については、返礼品に係る経費率等を見直しつつ、納税額の増を目指す。



九重“夢”大吊橋

地熱発電で財源確保は

菅原 国は第7次エネルギー基本計画で再生エネルギー拡大にむけて、次世代技術を活用した、地熱発電の実用化に本腰を入



八丁原発電所

ている。地熱の町として、大手の民間企業や、政府の応援を得て地蔵原、町有地30ha内が有望だと考え、議会と執行部が連携し、県の協力を得て、国へ働きかけ地熱発電で財政確保ができるのではないかと。

日野町長 開発は大きなリスクを伴うため、国の動向を注視していく。勉強会など常にアンテナを張りながら行動したい。

子ども達に安心、うまい給食を

菅原 子ども園や小中学校の給食費、賄い材料費、物価高騰で大変ではないか。

執行部 子ども園や、給食センターの賄い材料費は、物価上昇率と米の価格高を見込んで、前年度予算20%増で対応している。

町政を質す 一般質問

増田 裕子



公共交通について提案!

- ①非常に使いやすくなったココバス、さらに目的地を広げて町民の活性化につなげて
(町内の飲食店や美術館などを加え、数人でお出かけもできるように)
- ②ライドシェアの検討も

増田 大雨をはじめとして大きな災害が心配される時期である。町内危険箇所の把握と対策、備蓄や避難体制はどうなっているか。

志賀危機管理・防災安全課長 5月16日に防災パトロールを実施した。21の災害危険箇所については、情報共有や消防団との連携を図っている。備蓄に関して、携帯トイレ以外はすべて3日間分の目標を超える状況で、今後更に購入・備蓄を図っていく。

増田 昨年10月から非常に便利になったココバスに提案。町内の飲食店や美術館なども目的地に入れてはどうか。



便利なココバス

松尾未来デザイン推進課長 現状ではまず生活支援としてココバスの運営を行っていきたいが、現時点が完成形ではないと考えている。

増田 飯田高原ではタクシーの要求、需要が非常に多くある。公共ライドシェアは、全国1,741市区町村のうち約1,000市区町村ですでに導入されている状況。九重町でも検討してはどうか。

松尾未来デザイン推進課長 日本版ライドシェアについて、昨年度九重町地域交通協議会でも話題に上がったが、なかなか難しいとの意見であった。現状は地元タクシー事業者の維持・存続のため利用促進及び担い手確保に努めていきたい。

ライドシェア：一般ドライバーが対価をもらって
自家用車で客を運ぶサービス

増田 米価が高騰し大きな話題となっているが、消費者の声ばかりで生産者の状況は問題にされない。そもそも国の農業政策の結果であるのに、今後の行方が心配である。町内の米の生産状況と今後の支援は。

藤野農林課長 九重町では、寒暖差や豊富な水資源を生かして良質な米の生産が行われている。生産量は年々減少傾向にあったが、令和7年産米の作付面積については10ヘクタールほど増加見込みである。昨年の12月に九重町農業成長産業化推進協議会を設立した。町として県や農業団体等と連携して取り組んでいく。



美しい田んぼ

8分野の提案、各課で熱心な検討を求める!

増田 中学生と若手職員が検討したまちづくりプラン、町の課題を8つの分野に分け、解決策や中学生ができることを提言する素晴らしい内容だ。このプランを町はどのように受け止めていくのか。

松尾未来デザイン推進課長 前向きに関わる姿勢の必要を非常に大きく感じた。将来的なまちづくりの担い手育成という観点からも重要だと認識している。可能なものについて具体化を図り、若者が主体的にまちづくりに関わる機会の提供にもつなげていきたい。

佐藤社会教育課長 ここのえ夢高校(高校生サークル)に引き継がれて、現在取組を進めている。100名を超える高校生が加入しており、3つの企画(医療・福祉の分野で認知症カルタ、地域づくりの分野ではeスポーツ大会の開催、デジタルの分野でドローンの体験)を進めている。

手話言語条例と併せて障害のある方の情報保障及びコミュニケーション手段の利用促進に関する条例の早期制定を望む



野上 香代子

手話言語条例について



野上 現在の手話言語条例への対応は。

日野地域共生支課長 誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指すための条例であると認識しているが、本町では条例制定に至っていない。

野上 九重町に手話を必要とする方々が何名いるか。

日野地域共生支課長 聴覚障害1級4人、2級5人、3級11人・言語障害3級2名・音声機能障害3級1名、計23人については話すことや聞くことのどちらか、又は両方がほとんどできない状態である。

野上 手話通訳者を講演会に配置している理由は。

日野地域共生支課長 聴覚障害者などの参加が見込まれる講演会や研修会などについては、福祉の向上に関する事業として手話通訳士を配置している。

野上 学校教育の中で手話がどのように活用されているか。又手話に触れる機会をつくれるか。

玉井教育振興課長 現行の学習指導要領において手話を取り扱うことが明確に示されていないが、道徳や総合的な学習の時間における福祉の分野で、手話に特化した授業に取り組んでいる学校もある。

時松教育長 教育課程に位置づけがないので強制はできないが、手話の有効性について話し、各学校で取り組んでみたらという提案はできる。

野上 手話言語条例と併せて障害のある方の情報保障及びコミュニケーション手段の利用促進に関する条例の制定ができないか。

日野地域共生支課長 次年度、障害福祉計画の策定に伴い、十分なアンケート調査などを実施し策定員の意見等も踏まえながら適切な対応を図る。

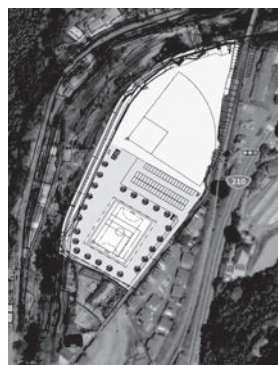
公園について

野上 公園を必要と考えるか。

佐藤社会教育課長 子どもたちの健やかな育ちや地域での交流の場として、公園の存在意義はある。しかし、少子化が進む中で、遊具を備えた公園の必要性は低いと考える。

野上 野上中学校跡地利用で公園の計画があるようだが、どのような公園を考えているのか。

佐藤社会教育課長 跡地活用に向けたおおむねの配置案は、区長会・まちづくり協議会と協議を行い決定しているが、今後は地元の意見を聞きニーズに沿った空間づくりに努めていく。



野上中学校跡地計画図

防災について

野上 防災士の連携はできているか。

志賀危機管理・防災安全課長 防災活動において重要であることの認識はあるが現在東飯田地区と南山田地区の2カ所での連携である。

野上 防災士支援は何かあるか。

志賀危機管理・防災安全課長 防災士の重要性や役割について改めて研修会等を開催して、スキルアップに向けて取り組む。

野上 防災士の資格を取得しているのは何名か。

志賀危機管理・防災安全課長 東飯田地区47名、野上地区52名、飯田地区39名、南山田地区47名、九重町全体で185名。

野上 防災士組織の立ち上げ支援は。

日野町長 地域を守ろうという機運を高める仕掛けをしなければならないと考えている。

町政を質す 一般質問

岩尾
茂樹



正規職員の採用と中途退職について、 及びハラスメント防止について伺う (採用応募者が殺到し、働く人が辞めない職場は)

正規職員の採用について

岩尾 採用に至るまでの状況は。

竹尾総務課長 以下の表のとおりである。

職員採用試験実績

年度	R6(R7.4.1採用)				R5			R4	R3	R2
区分	当初	追加	再追加	計	当初	追加	計	当初	当初	当初
応募者数	78	4	27	109	50	41	91	18	24	21
受験者数	67	4	21	92	30	30	60	12	18	16
合格者数	4	0	4	8	5	1	6	4	4	7
辞退者数	2	0	1	3	2	0	2	0	0	0
採用者数	2	0	3	5	3	1	4	4	4	7

※R6はテストセンター方式導入 ※R5は試験日程を1月前倒し

岩尾 この数値をどのように認識しているか。

日野町長 複数の会社や自治体に合格したので辞退したと認識している。

岩尾 今後の対応は。

竹尾総務課長 この町のまちづくりを受験者にアピールすることも大事なかなと思っている。

日野町長 町の魅力や人の魅力を町全体で作っていくということを求めているかなと考えている。

岩尾 具体的な施策、方法は。

竹尾総務課長 町が求める職員像を明確化しアピールするのが一つ。インターンシップ制度（職場体験）の受け入れも有効と考えている。

中途退職者の状況について

岩尾 定年以外での退職者数は。

竹尾総務課長 以下の表のとおりである。

中途退職者

年 度	R6	R5	R4	R3	R2
人 数	4	4	3	0	3
経験年数	35	15	38		35
	26	11	12		7
	20	6	4		2
	15	3			

岩尾 中途退職は残念だと思うがどう考えているか。

日野町長 年数に関係なく、町で働くことに対する魅力をつくることと、自分がそういう気持ちになることが大きなことではないかと考えている。

岩尾 町長も辞めることは残念だ、単純に喜んで送り出してはいない、役場で頑張ってもらいたいとの思いはあると思うが、もう辞めるのは勝手に、もうそれは仕方がない、本人の希望だからとそういうふうな解釈をされると質問が続かないが、その再確認、どうか。

日野町長 議場でそういう発言をするのはひどい言葉だ。町長としては常に職員全員が幸せになってもらいたいと思っている。そういうことも事前に確かめもせず議場でいうのは大きな問題だと思う。いまだかつてそういう発言をされた方はいない。

岩尾 現状の分析と今後の対応は。

竹尾総務課長 これまでの経験を活かし新しい道に進んでいくため辞めたと考えている。働きやすくて成果の上がるいい職場づくりを目指したいと考えている。人を育てることも必要と思う。

ハラスメント防止について

岩尾 相談や申告、通報ができる制度、体制は。

竹尾総務課長 ハラスメントの防止等に関する規程や防止委員会を設けており、適切に対応している。

岩尾 過去の届出等は。

竹尾総務課長 令和5年に2件、令和6年に1件。

岩尾 アンケート等の調査は。

竹尾総務課長 一部職員による団体のアンケートでは、まわりにハラスメントがあると感じている職員が多い。

岩尾 役場全体のアンケート調査を何故していないのか。

竹尾総務課長 改めて必要性を感じたので、研修をしたうえでぜひ実施したいと考えている。

日野町長 職員にはつらい思いをさせたくないのも、理想に向かってなくすよう努力してまいりたい。

「持続可能なまちづくり」 「水道水の安全確保」 「行政区の見直し、合併問題」 を問う



大津留 敏加

大津留 環境省は、健康被害が懸念される有機フッ素化合物、PFASによる水道水の水質検査を令和8年度より水道法上、水質基準の対象に引き上げる方針が示された。地区水道の指導についてはいかがか。

梅木建設課長 PFASの水質検査は、昨年度まで地区水道の検査は未実施。給水人口101人以上、1日最大給水量20m³を超えた水道組合が対象となる。玖珠郡水道協会（玖珠町・九重町）で協議し早い時期に対応したい。



PFASの検査に係る15種類の容器



小さな集落の常会

町道等の維持管理について

大津留 高齢化と人口減少が急速に進む現状、町道の維持管理（草刈り・側溝の清掃）、水路の泥上げ等、課題となっている。町は今後どのように対応をするのか。

吉光観光・地域振興課長 大分県の事業として、高齢化集落応援隊（町道の草刈り・側溝清掃・水路の草刈り・泥上げ）という制度がある。市町村の方も支援を行っている。高齢化率50%以上の行政区が対象、町も相談窓口として申請手続き等の支援をしている。



水路の草刈り

行政区の見直し、合併について

大津留 行政区の見直し、合併について、大きな合併が出来た場合は助成金の考えはないか。

竹尾総務課長 高齢化等を背景にしたとき、行政区の合併や見直しというのは、将来的に避けて通れない重要な検討課題。ただ、行政区の合併は、それぞれの地域の自主的な合意形成を基本とすべきもので、補助金で誘導という形は望ましくない。現段階では補助金を設ける考えはない。

大津留 課長の答弁では、助成金の考えはない。町長の考えは。

日野町長 先程総務課長が答えたとおり。

町政を質す 一般質問

矢野 春美



女性や若者に選ばれるまちに!! 一般社団法人このえ町づくり公社に 期待する『地域の稼ぐ力』

幸福度の向上と地域活性化

矢野 地域と住民の幸福度を高めるために地域活性化が不可欠。具体的な取り組みは。

吉光観光・地域振興課長 今年の4月に設立された一般社団法人このえ町づくり公社は、観光を基軸として地域の稼ぐ力を引き出すことを目的としており、地域資源を活用して経済を活性化させていく。

矢野 現在の具体的な取り組みは。

吉光観光・地域振興課長 まずデータに基づく明確なコンセプトを持った戦略をしていくために、今は情報収集、戦略策定に取り組んでいる。

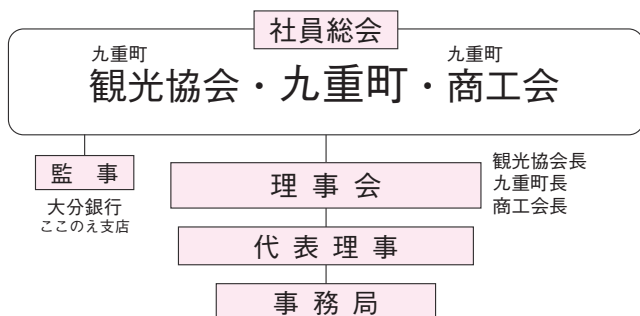
矢野 農業委員会、商工団体、などとの情報交換はなされているか。

吉光観光・地域振興課長 観光、商工団体、交通団体などの皆さんと、まずは協議の場を持つ準備を進めている。

矢野 小規模でも楽しみと生きがいを持って続けてきた経営が法改正などで廃業に至るケースがあるが、支援策は。

藤野農林課長 町の企業支援事業、また特産品、加工品については、開発支援事業の補助制度による支援をしている。

公社組織図



女性や若者に向けた空き家改修

矢野 女性、若者に選ばれるにはすぐ住める家が必要。空き家を町が期間限定で借り上げ、水回りなど改修して貸し出すことで移住者が大幅に増え、子どもも増えている例がある。九重町でも取り組めないか。

日野町長 空き家をどう活用するかは大きな課題。住民と互いの情報共有、互いの理解を深めながらやっていかないと前に進まないと考えている。



自主財源について

矢野 選ばれる町を目指すには、社会福祉や教育、子育て支援などの充実のためにも自主財源確保が重要。取り組みは。

竹尾総務課長 一つは、既存財源の着実な確保。さらに、地域経済を活性化させ、住民所得を引き上げ、町税収入の増加にもつなげたい。また、新たな財源の創出として、ふるさと納税、企業版ふるさと納税などを通じて自主財源の一層の拡充を図りたい。

矢野 九重町民以外の九重町ファンの方にデジタル住民票を発行する考えは。

松尾未来デザイン推進課長 自治体における事例はまだ少なく、効果については未知数。現在のところは考えていない。

「住民の声」と「議員の声」は行政運営に活かされているのか？



河野 克輝

住民の声について

河野 住民から声が上がリ、その後の取扱はどうしているのか。

松尾未来デザイン推進課長 関係各課において集約・整理の上、実施が可能なものか判断し施策や事業に反映できるよう努めている。

議員の声について

河野 議員の声をどう考え、その後の取扱はどうしているのか。

竹尾総務課長 地域の実情に根差したものであり、町の将来を見据えた建設的なものであると考える。

担当課と共有し、しっかり確認、課題整理、必要性、実現可能性について検討している。

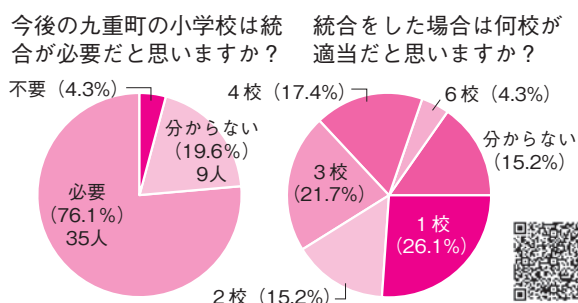
小学校について

河野 議員になり2年間「小学校統合の議論が必要」と言ってきたが聞き入れてもらえず、目に見えるようにアンケートで提示しても「個人的に行ったアンケートに対応は難しい」と言われ、住民の声と議員の声を併せて発してきたが、新たに始まる*あり方検討委員会の議題になぜ「統合」がなかったのか。

〔個人で実施したアンケート結果〕

九重の小学校を卒業した方々にアンケート

対象者：九重の小学校を卒業した方々
(19歳、20歳、21歳の計46人) 令和6年



玉井教育振興課長 教育委員会としては現在の計画通り6校維持に基づいて、各小学校を維持することが最優先事項。

河野 調査検証もせずに教育委員会の方針だけで進めるのであれば、「住民の声」「議員の声」で答弁された内容と整合性がない。整合性のとれた行政運営が必要ではないか。

日野町長 *あり方検討委員会の中で統合の話は出てくると想像はしているが、統合ありきの話はしてほしくない。

※令和7年度から新設される「小学校のあり方検討委員会」。検討内容は「魅力ある学校づくり」「少人数教育及び地域密着型教育の充実」について

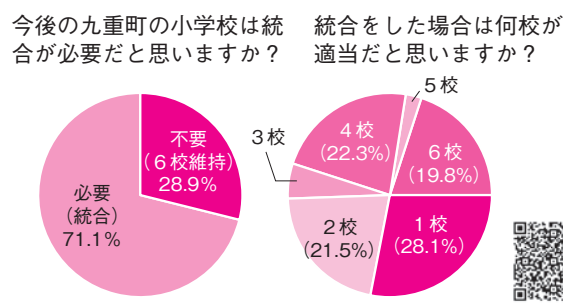
人権研修に関する動員について

河野 核家族化、共働き、児童減少のなか、保護者に対しての動員が多く、PC利用など、現代に合ったやり方に変えていく必要があるのではないかと。

佐藤社会教育課長 負担が大きいとの意見も聞いているが、なるほど“ザ”人権講座については、対話の中で気づきを得てもらうことが狙いであるため、必要性は考えていない。

小学校、こども園保護者アンケート

対象者：アンケートを配布した約800人
(回答してくれた121人) 令和5年



きらり★このえ人



しいたけ栽培個人経営農家

さとう よしのり
佐藤 義徳さん 41歳（野上滝上）



Q しいたけ農家さんの現状は？
【佐藤さん】大分県産の乾燥しいたけは品質の良さから、品評会では25年連続優勝するほど素晴らしいですが、生産者減少の影響でOSK久大支部も合併をせざるを得ない状況と聞いています。
組合に入っていますが、若い人はあまりおらず、周りの農家さんは親世代の方が多く印象があります。

Q しいたけ栽培に参入したきっかけは？
【佐藤さん】山、自然が好きということとお手伝いしていた方がしいたけ農家さんでありサポートしていただいたことがきっかけです。大分九重が好きなので、大分のブランド「しいたけ」を守りたい気持ちもあります。

しいたけはクヌギを切り倒し、切り分け駒打ちをし、組み込んで2年寝かし、移動させて立てていきます。急傾斜地で重い一本の木を何度も持ち上げることに



が必要で肉体的にはかなり辛い作業が多く、とても大変です。機械を導入すれば楽になりますが、資金的にはかなり厳しい状況です。
個人でやっているの、怪我や病気になると収入が入って来ないので不安も大きいです。

Q 今後の夢や目標は？

【佐藤さん】先ずは先輩方から「こりや真剣いいナバ山やの」って言われるようになりたいです。笑

今は露地栽培だけですが、今後は耕作放棄地などを利用してハウス栽培で「しいたけ狩り」ができる環境を作り、新たな観光名所として町内外からの人々をよび込み、九重の良さを知ってもらいたい。

まだ先のことですが、次の世代が農家に関心を持ってもらえるような環境づくりと経営力を身につけてい

きたい。

Q 九重町に思うことは？

【佐藤さん】若い世代の農家さんがもっと増えて横の繋がりができ、九重町の農林業が盛んになり、活気ある町になることを期待しているし、そのリーダーは日野町長にお願いしたい。

僕も頑張りますが、九重町民の皆様も一緒に盛り上げましょう！

Q 議会に思うことは？

【佐藤さん】議会のことはよく分かりませんが、若い世代が入りこくと意識するようになりました。

積極的に住民の声を聞いて頂き、この町に必要な事をひろいあげて欲しいです。

すべての農家さんも一緒だと思いますが、鹿や猪の被害が多く困っています。
議員の皆さんには各地区の農家さんに声をかけて頂きたいです。



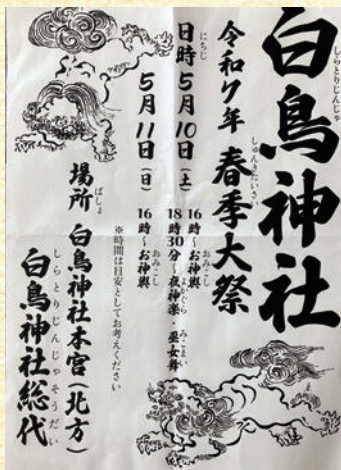
傍聴へどうぞ 次回は9月です



第25回



今年から7人の新しい巫女が仲間入り！



子どもたちが大好きな柴引き

夜神楽



巫女舞



始まりと終わりは皆でお参り

議会だよりについて
ご意見をお聞かせください。
【議会事務局：76-3814】

令和7年7月17日
発行／九重町議会 編集／議会広報特別委員会
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メール(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

広報委員長 矢野 春美
副委員長 河野 克輝
委員 土井眞一郎
委員 増田 裕子
委員 野上香代子
委員 佐々木信介

河野 克輝

令和7年も早いもので半年がすぎました。
田植えも終わり農家の皆さんも一息入れているのではないかと思います。しかし、この時期の心配事で近年の甚大化する雨の脅威があります。
田畑が気になることが増えると思いますが、長雨や大雨の時はいつも以上に気を引き締め危険と思ったら近寄らないようにしましょう。
引き続き、皆さまに読んでもらえるように尽力します。

編集後記